

授業科目名	社会保障論	単位数	4
担当教員名	宮寺 良光	担当形態	単独
実務内容 (実務家教員の場合)			
<p>「学位授与の方針」との関係</p> <p>社会保障制度は、基本的人権の基盤である「生存権」に由来し、誰もが生活上の問題に直面しても最低生活が保障され、もって社会の一員として生活するための必要不可欠な社会制度である。社会保障制度の理論や実際を理解することで社会の一員として参画することはもちろん、これを活用して他者を支援するための知識を得て個人や社会の課題解決に貢献し、共生社会の創造に貢献できるようになる。</p>			
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>(1) 資本主義社会における社会保障の基本的性格について理解する。</p> <p>(2) 社会保障各制度の原理と内容について理解する。</p> <p>(3) 今日のわが国における社会情勢を洞察し、それらが社会保障に及ぼす影響について理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本科目は、資本主義社会における社会保障の目的と手段について理解し、現行制度の問題と課題について検討することを目的とする。</p> <p>社会保障制度は、生活上の事故に遭遇した住民生活を支えるものであり、すべての住民が安心して暮らしていくためにも、制度に関する知識が住民一人ひとりに周知されている必要がある。しかし、社会保障に関する知識の周知徹底は、難しいのが現状であるため、福祉対象者の援助に携わるソーシャルワークの場面で知識を問われることの多い領域である。よって、社会保障制度に関する正しい知識を身に付けることがソーシャルワーカーには求められる。また、社会保障制度を支える社会環境は、厳しい状況にある。経済の低成長や人口の少子・高齢化問題などを理由に、1980年代以降、社会保障の本来的目的に逆行する「改革」が行われている。このような社会保障の本来的目的と実際の制度との間でせめぎ合いが続いている中で、「改革」の動向を洞察し、その是非を判断する力を身に付けることもすべての住民に求められる。そのけん引者としての役割もソーシャルワーカーには求められる課題である。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会保障とは何か？</p> <p>第2回：資本主義社会における生活リスクと社会保障</p> <p>第3回：社会保障制度の体系と機能について</p> <p>第4回：社会保障制度の生成過程①（先進諸国）</p> <p>第5回：社会保障制度の生成過程②（日本）</p> <p>第6回：年金保険制度について</p> <p>第7回：医療保険制度について</p> <p>第8回：介護保険制度について</p> <p>第9回：雇用保険制度について</p> <p>第10回：労働者災害補償保険制度について</p> <p>第11回：社会扶助および社会福祉制度について</p>			

第12回：社会保障制度の財政状況について

第13回：国民生活の実態と社会保障①（人口の少子・高齢化、社会・経済の変動状況）

第14回：国民生活の実態と社会保障②（格差、貧困、ワーキングプア）

第15回：社会保障制度の国際比較

定期試験

テキスト

(1) 今井伸編『わかる・みえる社会保障論：事例でつかむ社会保障入門』みらい 2016年（ISBN-10: 4860153863）

参考書・参考資料等

(1) 唐鎌直義『脱貧困の社会保障』旬報社 2012年

(2) 鈴木亘『社会保障の「不都合な真実」』日本経済新聞出版社 2010年

(3) 宮寺良光『貧困問題をめぐる地域課題研究—岩手での調査・実践の記録—』  
ブイツーソリューション 2016年

(4) 宮寺良光「『構造改革』以降の高齢者の生活困窮化要因に関する分析」  
中央大学経済研究所『中央大学経済研究所年報』第49号 2017年

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）を総合して評価する。